

SC-IB NEWSLETTER

2026/05/23 発行

I 6・7月の茨城県連盟・日本連盟事業 ※会議等は除く

| 月日 | 名称 | 主催/開設 | 内容 |
|-------|------------------------|-------------------------|---|
| 6月7日 | 指導者のつどい | 県 コミッショナー | 野外料理を通じて、県内多くの指導者の方々の交流を図り、つながりを強化したいと思います。 |
| 6月6日 | 第4地区主催 定型外訓練 | 第4地区 コミッショナー グループ | つくば第3団あかげらの森野営場にて、スカウトソングの重要性とキャンプファイアの教育的意義を学びます。 「申込締切：5月24日」 |
| 6月13日 | 新歓 BBQ | 茨城ローバースカウト 協議会 | 本協議会の目的を理解して戴き、相互に親睦を深め、県内ローバースカウト活動の活性化を図ります。 「申込締切：6月8日」 |
| 6月28日 | 第90回 ボーイスカウト 講習会 | 指導者養成委 員会 | 指導者導入訓練であり体験を通してスカウト運動の概要とスカウト教育の原理と方法を学びます。 「申込締切：6月18日」 |
| 7月5日 | 第10回 デンリーダー 研修会 | 指導者養成委 員会 | カブ隊を運営するために、より良き活動が実施できるように、隊指導者とDLのための研修会です。 「申込締切：6月25日」 |
| 7月19日 | 救急法講習会 | 進歩委員会 | 一人ひとりが安全意識を高く持ち、様々な状況に備えておくことが大切です。全ての指導者・スカウトが救急法を身に付ける事を目標としています。 |

※上記各事業の参加申込締切が近づいています。地区コミッショナーや団委員長は各指導者の、また各隊隊長はスカウトの参加申込について、フォローの程宜しくお願い申し上げます。

II 県コミッショナーからのお知らせ

1. 令和8年度第1回「指導者のつどい」開催のお知らせ

昨年度に引き続き「野外料理」を展開します。野外料理を通じて、県内多くの指導者の方々と交流していただき、茨城県連盟指導者のつながりを強化したいと思います。

概要は以下の通りですが、詳細につきましては5月9日付の県連連絡信をご参照ください。

日時 令和8年6月7日(日)

午前9時30分受付、午前10時開始、午後3時解散

場所 福ちゃんの森公園 バーベキュー場(笠間市福田 2990-1)

テーマ 「アウトクックラボⅡ(Outdoor Cooking LaboratoryⅡ)」

対象者 全ての指導者(DL、団委員を含む)、ローバースカウト、保護者



Ⅲ 各種委員会よりのお知らせ

1. 指導者養成委員会（郡司委員長）

新年度6～7月の指導者研修は以下を予定しています。

6月28日第90回ボーイスカウト講習会（高萩スカウトフィールド）

7月5日第10回デンリーダー研修会（地域交流センターともべ「トモア」）

5月10日に行われました第89回ボーイスカウト講習会に15名、同じく5月10日に行われました第11回安全危機管理研修基本には12名のご参加がありました。ありがとうございました。

安全危機管理研修は指導者が受講する必須の研修です。この後 STEP1、STEP2 と行いますので参加可能な指導者は積極的にご参加願います。

団委員長におかれましては団内に周知いただき、全ての指導者が受講いただけますよう、よろしく願いいたします。

2. イベント国際委員会（園部委員長）

2-1) ベンチャーラリー2025を実施

計8回の実行委員会を経て計画したベンチャーラリー2025を3月20日(金)～21日(土)の一泊二日で実施しました。

内容 山手線一周ミッションハイク

参加スカウト 15名(9個団)

3月20日9時に東京駅に集合したスカウト15名は3班に分かれて決められたミッションに取り組みながら山手線を一周しました。

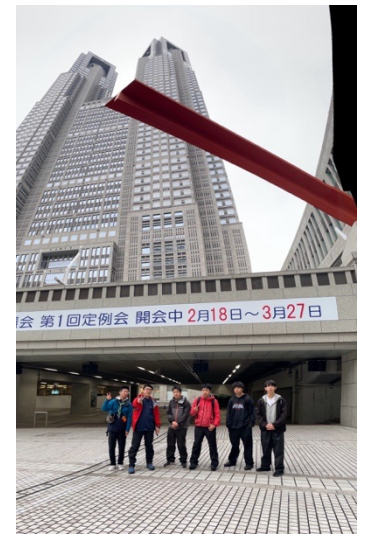
初日は小雨降る中ほぼ半周し、大田区青少年交流センターで一泊。翌朝残りのルートに挑戦しましたが各班ともゴールの時間に間に合わずあとわずかのところで一周はなりませんでした。

それでもみんなで計画し実施することができて楽しかった、達成感があったとの感想でした。

サポートいただいたコミッショナーグループおよびイベント国際委員の皆さんもお疲れ様でした。



ベンチャーラリー2025 山手線一周ミッションハイクのスナップ集



3. 地域連携・広報委員会（富田委員長）

3-1) 2026年度「スカウトの日」参加申し込みおよび活動資材の募集について

4月21日の県連連絡信でご案内済みですが、スカウトの日の参加申込及び資材申込の締め切りが迫ってきています。各団におかれましては、お取り進め方宜しくお願い申し上げます。

スカウトの日は「日日の善行」の一環として、全国のスカウトや指導者が、奉仕活動として環境美化・保全活動をはじめとするさまざまな社会貢献活動を全国各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献することを目的に実施しています。

今年度の実施要項は以下の通りです。

実施日：2026年9月21日（月・祝日）（この日には限りません）

主催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

後援：文部科学省・環境省・こども家庭庁（予定）

協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

テーマ：出動！キラまち隊！～人と地球によりよい未来を～

実施方法：

- ①各団は、日本連盟ウェブサイトから参加申込（活動資材申し込み）を行います。
資材申込期間は4月中旬～**6月15日（月）**です。
「スカウトの日」特設ウェブサイト：<http://scout-project.jp/>
- ②日本連盟は、申込みがあった団に対し7月下旬を目処に活動資材一式を送付します。
- ③各団は、事業実施後、ホームページ上において活動の報告を行います。
（報告の締め切りは11月6日（金）です）

3-2) 2026年度難民支援衣料回収プロジェクト（開催予告）

日本連盟事務局から、衣料回収プロジェクトについてお知らせ（4月30日付）がありましたので共有いたします。

毎年春と秋にキャンペーン期間を設けて実施している事業で、ユニクロを運営するファーストリテイリング社との協業です。本年度はまだ詳細確定していない部分もありますが、日連 Web ページの更新がありましたので、ご案内申し上げます。全国宛ての発信文書について、GW 明け、5月中旬を目指して準備を進めておりますので何卒、よろしくお願いいたします。

実施期間：年間スケジュール予定・現在調整中

申請期間：6月1日（月）～7月26日（日）

学習・協力依頼期間：8月1日（土）～10月4日（日）

回収・発送期間：10月上旬～11月中旬

リンク：https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees

本件のご質問は、日本連盟事務局・社会共創担当（渋谷 hello@scout.or.jp）までお願いいたします。

3-3) 日本連盟からの共有情報

- ◆2025年度加盟登録数(2026年3月末現在)
 - ・加盟員(1号会員)
団数 = 1,581 団(対前年度 ▲48 団)
加盟員数 = 71,394 人(対前年度 ▲3,043 人)
 - ・維持会員(3号会員) 4,324 人(法人会員を含む)

- ◆維持会費の入金状況
 - ・2026年3月末日現在入金額 51,508,000 円
(2025年度協力依頼額 37,000,000 円)

- ◆日連 HP 海外活動関連
 - ・2026年度スカウト特別海外派遣 派遣員の募集について
https://www.scout.or.jp/member/2026fuji_scout_tour
 - ・海外スカウト行事の紹介
https://www.scout.or.jp/member/hongkong_international_youth_forum2026

4. 茨城ローバースカウト協議会 (石井紅議長)

4-1) 新歓 B B Q 開催のお知らせ

茨城ローバースカウト協議会(茨ロー会)で「新歓 BBQ」を開催することとなりました。
詳細は5月20日発信の連絡信をご参照ください。
多くの方々のご参加をお待ちしております。

新歓 BBQ 参加者募集概要

- 日時: 2026年6月13日(土) 10:30~15:00
- 場所: 北山公園(〒309-1722 茨城県笠間市平町 1416-1)
- 主旨: 今年度ローバー隊に上進したスカウトおよび同年代指導者となった構成員に
本協議会の目的を理解していただくとともに、各構成員が相互に親睦を深め、
茨城県内におけるローバースカウト活動の活性化を図る。
- 参加対象: 茨城県連盟に所属しているローバースカウトおよび同年代指導者
- 参加費: 1,000 円 ※当日受付にて徴収します
- 申込方法: 下記 Google フォームから申し込みをお願いします
<https://forms.gle/pshPCoprrvNsisFg9>
- 申込〆切: 6月8日(日)

お問い合わせ先: 茨城ローバースカウト協議会 ibaraki.rover@scout-ib.net

IV 各地区・各団の活動紹介

1. 団デイキャンプ (ひたちなか第1団 磯崎幸子)

ひたちなか第1団は、『団デイキャンプ』を5月2日(土)ひたちなか市親水性中央公園で行いました。ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊、団委員、スカウトの兄弟、保護者会、総勢120名が参加しました。

午前中は隊ごとに活動し、ビーバー隊は兜作りと障害物だるまさんが転んだ、カブ隊は竹ご飯作りに挑戦、ボーイ隊は手旗などスカウト技能、ベンチャー隊とローバー隊はダッチオープンをしました。また、ビーバー保護者会はチョコバナナ、カブ保護者会は混ぜご飯のおむすび、ボーイ保護者会は流しソーメン、団委員は山菜や旬の天ぷら、牛肉の煮物、漬物を作り、全員で楽しい野外料理パーティーができました。

天候に恵まれましたが、強風に見舞われてタープが倒れないよう必死で押さえました。保護者同士、スカウトの仲間意識等、団全体の交流が図れ、とても良いデイキャンプでした。今後ますます団の発展に向けて活動をしていきたいと思ひます。



2. 第6地区 森林伐採体験（第6地区 富田光紀）

森の木を切ることは、古くは縄文時代から行われていました。竪穴住居の建築材、暖房や炊事の燃料、穴を掘ったり、狩猟用や漁労用の道具として、櫛や生活雑貨（縄文時代には椀や箸は確認されていません）としての利用など様々な用途で木材は活用されてきました。

里で暮らす人は、山から様々なものをいただいています。山菜、果実、はちみつ、果実酒、肥料用の落ち葉、燃料などです。

山の里に近いところは里山と呼ばれ、日常の生活圏となっており、それより奥は奥山と呼ばれ、猟師や木こりたちの活動の場でした。この里山が、人と山の動物の生活の境界となっていて、人の手が加わった明るく開けたところでした。二宮金次郎が粗朶を拾ったのもこの里山です。（金次郎が背負っているのは、薪ではなく粗朶です。）

有史以前の日本列島には天然のスギが広く分布していました。江戸時代を迎えるころから森林荒廃への対策としてスギ・ヒノキの人工造林が始まり、明治からの近代化に伴い木材需要が急増し、森林荒廃が再び深刻化し、1897年の森林法制定で伐採規制が強化され造林が制度的に支えられました。

戦後復興（1950～60年代）のための木材需要を背景に政府は「拡大造林計画」を推進し、広葉樹を伐採して成長の早いスギ・ヒノキに植え替えました。この時期に、現在のスギの人工林の大部分が成立しています。一方この頃から石油やガスへの燃料転換や、化学肥料の使用が一般化したことにより、里山の自然林が利用されなくなってきました。（林野庁 HP 森林資源の利用と造成の歴史）

人工林は自然林と異なり、木と木が密に植えられており、成長に伴いお互いが干渉しあうようになります。木により成長の早さが異なり、また病虫害などにより生育不全が起こるため適切に管理していかないと、用材として利用できなくなってしまいます。

木と木の間を成長に伴い適切に保つ、他の木よりも成長の早すぎる木、生育不良の木、などを取り除くために間伐を行い木の成長を管理します。また使用目的に合わせた太さの用材を切り出すためにも間伐されます。

3月22日に第6地区の森林伐採体験を行いました。穏やかな晴天に恵まれ、地区内のBS、VS、RS、20名が集まり、間伐の意義の説明ののち、伐倒の方法の指導がありました。倒す方向に応じた受け口、ツル、追い口の切り方を体験しました。写真は受け口の斜め切りの実習です。そののち胸高直径20cmくらいのスギを数本伐倒しました。午後は写真の左端に見える胸高直径50cm位の木を伐倒しました。大きな地響きとともに木が倒れる様子は、感動的でした。

伊勢神宮の式年遷宮で行われる斧による伐採「三つ紐切り」も同じ原理です。昭和30年代に日本にチェーンソーが導入されたことにより、この斧による方法は通常の伐倒には次第に使われなくなりました。



3. こども天国 (取手第1団 富田光紀)

4月29日はこども天国の日です。利根川の河川敷にある緑地運動公園で、取手市青年会議所の主催で開催されます。今年で47回になりました。地域の各団体が一堂に会して一日を子供たちと楽しく過ごします。今回は27団体のコーナーと、剣道やカラ手、チアダンスなどの演技グループが参加しました。

普段触ることができないパトロールカーや消防車の運転席に座り、またバックホーの操縦をしたり、竹馬に乗ったり皿回しをしたりと様々なコーナーで遊ぶことができます。

曇り空で気温が低く、おまけに北風が強く肌寒い中、取手第3団のボーイ隊スカウトの国旗掲揚で開会式が始まり、参加者は元気よく会場に散っていきました。

ボーイスカウトのコーナーとして、以前は20mのジップラインやモンキーブリッジなどを製作していました。今回の出し物は、竹ぼっくりと迷路です。子供たちで大賑わいでした。

ボーイスカウトは第1回から、取手第1団、2団、3団が参加しています。ゴールデンウィークの幕開けにふさわしい楽しい行事です。



4. かすみがうらマラソン 2026 奉仕活動報告 (第5地区イベント国際委員長 小野慎也)

第5地区では毎年「かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン」への奉仕活動を行っています。今年も下記のようにスカウト並びに指導者が奉仕を行いましたので報告します。

1. 日程 令和8年4月19日(日) 午前9時集合～午後4時半解散
2. 参加者 第5地区各団スカウト(CS,BS,VS,RS)並びに指導者 全67名
午前担当(9:00～13:00)
土浦3団 スカウト17名、指導者11名
午後担当(12:30～16:30)
阿見1団 スカウト10名、指導者9名
牛久1団 スカウト10名、指導者6名
牛久2団 スカウト3名、指導者1名
3. 奉仕内容 会場内フィニッシュエリア(ゴール後エリア)での備食ライス配付、並びに、表彰式でのプレゼンター補助

スカウトは笑顔で「お疲れ様です！」とランナーに声をかけていました。42kmを走ってきて疲れ切ったランナー、スカウトの声に笑顔で応えてくれたのがとても印象的でした。また、表彰式では緊張感がいっぱいの中でもスマートネスを発揮できていたと思います。



5. 第1回第4地区 スカウト技能大会 (神栖第1団 富田弘司)

3月29日(日)に第4地区のボーイスカウト隊にて、「班」を単位に各団の交流と、日々の訓練の発表の場として、各種スカウト技能に関連したゲームにチャレンジしつつ、互いに切磋琢磨し班内のチーム向上、班長のリーダーシップ向上、スカウト相互のフレンドシップを図るべく、スカウト

VI 連載コラム ～信仰奨励専門委員会より～



「おかげさま」と無意識の信仰心

朝、湯気の立つ味噌汁を前にするとき、私たちはほとんど何も考えない。けれど、その一杯の奥には、畑の土の匂いがあり、雨の記憶があり、誰かの手のぬくもりがある。それらは姿を見せないまま、静かにこちらを支えている。「おかげさま」という言葉は、その見えない支えにそっと触れるための、小さな扉のようなものだ。

仕事がうまく運んだ日、ふと「おかげさま」と口にするときがある。自分の努力だけではできなかったことに、誰かの助けや偶然の風が吹き込んでいたことを、心のどこかで知っているからだ。あとき声をかけてくれた仲間、たまたま開いた本の一行、あるいは、ただ体調が良かったというだけのこと。それらが重なり合って、ひとつの結果が生まれる。その重なりを、私たちは「自分の外側の力」と呼ぶ。因果を一本の線としてではなく、無数の糸が編まれた布として感じ取るとき、「おかげさま」という言葉は自然と口をついて出る。

この言葉を発するとき、人は自分の殻を少しだけ薄くする。「私は私だけでできているのではない」という、

柔らかなさとりのような、静かな肯定のようなものが生まれる。

それは宗教の教義とは違うけれど、世界を信じるという点では、信仰心と同じ場所に根を下ろしている。むしろ、意識されないまま働くという意味で、より深い層にある“無意識の信仰心”と言えるのかもしれない。

「おかげさま」と口にするたび、世界は少しだけ優しくなる。自分の外側にある力を認めることで、人は謙虚になり、開かれ、また新しいつながりを受け取る準備が整う。言葉が心を整え、心が世界との関係を変えていく。

その循環の中で、私たちは知らず知らずのうちに、世界を信じるという行為を続けている。結局のところ、「おかげさま」は感謝の言葉であると同時に、世界への静かな信頼を確かめるための、儀式なき儀式のようなものだ。

日常のひかりの下で、私たちはこの一言を通して、見えないものに支えられて生きているという事実を、そっと思い出している。

花を支える枝 枝を支える幹
幹を支える根 根は見えねんだなあ

みつを

(第6地区 富田光紀 信仰奨励委員)

